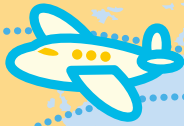


道東から出発の

新ボランティア紹介

2016年度2次隊



- ① 現地での活動内容
- ② 活動の抱負・目標
- ③ 2年間でやりたいこと

シニア海外ボランティア

田中 博美さん

出身:帯広市
派遣国:ラオス
職種:都市計画



「ルアンパバーン」などラオスの世界遺産巡りをしたい。



- ① 首都にあるラオス国立大学建築学部の教員に、都市開発の手法を教える。
- ② 街づくりの仕事で得てきた知識と経験を活かし、ラオスの国づくりに貢献したい。

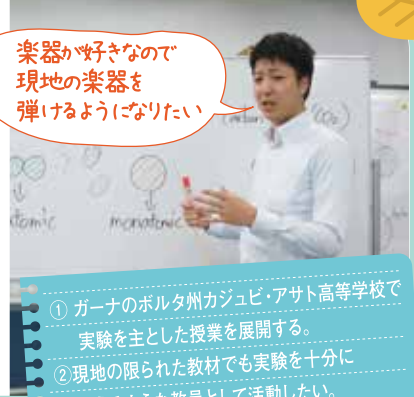
青年海外協力隊

茂 北斗さん

出身:標茶町
派遣国:ガーナ
職種:理科教育



楽器が好きなので現地の楽器を弾けるようになりたい



- ① ガーナのボルタ州カジュビ・アサト高等学校で実験を主とした授業を展開する。
- ② 現地の限られた教材でも実験を十分に行えるような教員として活動したい。

草の根技術協力事業

帯広商工会議所とタイ・マレーシア企業が「とがちマルシェ」に出展!

帯広商工会議所が実施している、JICA草の根技術協力事業「フードバレーとがちを通じた地域ブランドとハラル対応による産業活性化および中小企業振興プロジェクト」が9月2日～4日に帯広駅周辺で開催された「とがちマルシェ」に出展しました。

多くの来場者で賑わうマレーシアとタイのブース



タイから民族舞踊のダンサー4名が来日し、ステージでダンスを披露。沢山の来場者に両国の魅力を味わってもらうことができました。

この事業はタイとマレーシアに対して、十勝・帯広の地場企業・大学が有する技術を展開し、環境問題や食の安心・安全の向上に貢献することを目標としています。



販売するスパイスを使ったタイ料理の試食も振る舞われました。

また、日本から途上国への支援という一方向の関係ではなく、海外食産業関係者とのネットワーク形成、インバウンドビジネスの創出などを通じて十勝の産業をさらに活性化することも同時に目標としてきました。今後も3国の発展に繋がる活動が期待されています。



鮮やかな民族衣装と華麗なステップが目を引いた伝統舞踊

「世界のともだち2016」を開催しました

7月3日(日)に開催した国際協力・交流イベント「世界のともだち2016」には、2,200名に会場いただき、多くの地域の方で賑わいました。来場者は世界各国の料理を食べたり、研修員とコミュニケーションを図ったりと国際的な雰囲気を楽しんでいました。そして今年イベント直前の6月29日(水)から3日間、鹿追高校の2年生2名がJICAでの職場体験を行い、ステージの横断幕やJICAブースの展示レアウトに協力してくれました。

来年の「世界のともだち」も、皆様のご来場を心よりお待ちしております!



高校生が作成してくれた横断幕が大活躍!

Facebookページを始めました!

10月から国際協力にかかわるイベント情報やレストランの新メニュー、研修コースの様子などをどんどん発信していきます。ぜひご覧ください!



世界から日本へ
研修員 eye
アイ

JICA北海道(帯広)では、開発途上国から来た多くの研修員が、自国で必要とされている知識や技術を学んでいます。

タジキスタンからやって来たイクロモフさん



研修コース:タジキスタン国別研修
「農業普及サービス強化」コース

■名前:イクロモフさん

■出身:タジキスタン共和国



Хайр Насрулло (ハイルナブシャット)
タジキスタンの言葉、タジク語で“さようなら”

Q1 タジキスタンってどんな国?

中央アジアの内陸国で、国の93%が山岳地帯です。旧ソビエト連邦から25年前に独立し、新しい国づくりが盛んに進められています。

Q2 日本に研修に来た目的は?

日本の農業は大変進んでいます。農協や支援機関、国など支援体制がしっかりとした日本の農業システムを学び、国の発展に役立てたいです。

Q3 日本での暮らしはいかがですか?

日本人はとても人柄が良く礼儀正しいです。道に迷ったときも、親切に連れて行ってくれました。食べ物とても美味しいです。

Q4 日本滞在中で印象的だったことは?

東京を訪れたとき登った、都庁の展望台からの眺めは素晴らしかったです。人口1300万人の大都会を一望し感動的でした。

～JICA研修を支えてくださっている方をご紹介します～

帯広市農業振興公社
参事 米倉 進さん

今年の研修員との一枚



Q1 国際協力(JICA研修事業)に携わるようになったきっかけを教えてください。

建設を担当した帯広市農業技術センターが1995年11月に開所。翌年4月にJICA北海道(帯広)も開設し、同年の農業関連情報処理コースの講師以来、毎年何かで携わっており、両施設と共に歩んできました。

Q2 JICA研修に対してどのような想いでご協力いただいていますか?

馬耕時代に農家から信頼された獣医の父、産業組合時代から運営に携わり農協の基礎を作った義父、共に亡くなりましたが農民のために働いたことを尊敬しています。私も研修員の国の農業に貢献したいとの思いが強くあります。

Q3 思い出に残っている研修員がいたら国やエピソードを教えてください。

古い話ですが1998年の畑作管理コース中、誕生日の研修員に誕生ケーキのサプライズをしました。とても喜んでハグされたのですが、この時は本当に死ぬかと思いました。彼はバブアニューギニアの小錦並みの大男だったのです。これ以降サプライズはやめています。



視察現場で集合写真!

ボランティアの現場から

青年海外協力隊



能登 淳子さん

派遣国:ペルー
出身:宮城県(帯広農業高校教員)
職種:環境教育
派遣期間:2015年7月～2017年3月



配属先が最も力を入れて保護しているアマゾンマナティ



アマゾンでよく見るチョウモルフォという名前

私の任地のイキトスはペルーアマゾン最大の都市であり「陸路では行けない世界最大の都市」とも称されています。道路は100km先の町までしか通じていないため、輸送に使われているのは世界最大の流域面積を有するアマゾン川です。私は野生動物保護施設アマゾンレスキューセンターで働いており、そこには親と離れ衰弱したアマゾンマナティや市場で売られていたサルなどが保護され、再び野生に戻るようリハビリをしています。普段の私の仕事は、学校やコミュニティを訪問し、子供たちと一緒に畑を作ったり、ゴミや動植物に関する授業を行い、自然の大切さや面白さを伝える



授業が終わった後の1枚

ことです。アマゾンの森は生物多様性の宝庫です。活動の合間に見かける色とりどりの不思議な昆虫、様々な使い方のある植物たち、自由に森を駆け巡る動物たちに独自の言語や文化を持つ人々。アマゾンでの暮らしは毎日が発見と驚きにあふれています!